

学校教育目標

意欲に燃え、自ら学ぶ生徒【自学力】

規律を守り、責任を果たす生徒【責任感】

剛健で、実践力のある生徒【実践力】

福岡中学校で良かった？ ～ 幸福について共に考える(生徒編) ～

期末テストが終わりました。人生には「頑張りどき」というものがありますが、生徒の皆さんは計画的にテスト勉強を頑張れたでしょうか。事前のテスト勉強も大事ですが終わった後の見直しや復習も大事です。学校の勉強は、小学校から中学校に、中学校から高校へと系統的な学びが続いています。例えば、新たな課題に出合ったとき、解決方法や手立てを小学校や前の学年で学んだことをもとに導き出します。ですから、分からないことをそのままにしておくとその先の勉強の理解に影響が出てしまいます。改めて、テストの復習と計画・取組の反省をしっかりと行い、次のテストに生かしましょう。

さて、6月20日(木)の全校朝会で今年度の目指す学校像「共に学び 共に高め合う 幸福の岡」について講話を行いました。その中で、福岡中学校で良かったか？ 幸福とは何か？ 実現のためにどうするかについて生徒と一緒に考えました。

義務教育 学区制

福岡中で良かった？ 幸福ですか？

福中の良いところ

たくさんの仲間・先生
部活動 ◀ 個性・考え
校舎がきれい
歴史と伝統

まず、中学校は義務教育ですので学区制で入学する学校が指定されます。そこで、「みなさんは福岡中学校で良かったですか？」と聞きました。回答は、「そう思う」「どちらとも言えない」の2択としましたが、「そう思う」と回答した生徒が多く、「どちらとも言えない」という生徒は1/4程度でした。

次に、福岡中学校で「幸せですか？」と聞いたところ、「どちらとも言えない」と回答した生徒が多くを占めました。

そこで、幸福について考えるための視点として「福中の良いところ」を一緒に考えました。近くの人と相談しながら、良いところを3つ程度あげられる生徒が多くいました。時間の都合でわたしから、客観的に他校と比べて良いと思うところを説明しました。

- たくさんの仲間や先生と出会う。 ⇒ たくさんの個性や考えとの出会い ⇒ 豊かな人間性へ
- 部活動が13団体あり、自分のやりたい部活動を選択できる。 ⇔ 小規模校は3～4。
- 県内でもトップクラスの立派な校舎で、新しくきれいである。
- 歴史と伝統に育まれた素晴らしい校風である。

福中の良くないところ

人が多い
→誰かがやってくれる
→先生の指導が少ない
→考えが合わない人

反対に、「福中の良くないところは？」という問いに対しては、相談しながらそれぞれ2つくらいのことを考えたようです。

わたしから、良くないところとして、「人が多い」ことを挙げました。先ほどと矛盾していると思われるかもしれませんが前置きした上で、次の3つの理由を挙げました。

- ▲誰かがやってくれると考え、主体性や責任感等が育たない。
- ▲生徒一人一人への指導時間や回数が小規模校に比べると少ない。
- ▲人が多い分、考えの合わない人も多くなるかもしれない。

客観的な見方による福岡中の「良いところ」「良くないところ」に続いて、4月からの2か月半、校長であるわたしの目に映った福岡中学校の様子を伝えました。

<p>校長先生が見た福岡中</p> <p>福中だから 得られる 感動 感じられる 誇り 福中は地域の宝</p>	<p>👉 体育祭や中総体等から、福中だから得られる感動 福中だから感じられる誇り 福中は地域の宝であると強く感じました。</p> <p>👈 一方で、残念なことも学校では起きています。からかいが原因でけんかになり暴力問題に発展したケースが複数起きています。</p>	<p>その一方で 残念なこと</p> <p>からかい →けんか →暴力 傷つける言葉&行為 →心理的苦痛=いじめ</p>
---	---	--

また、人を傷つける言葉や行為で相手に心理的苦痛を与える「いじめ」もありました。自分では「いじめ」の自覚がなくても相手を傷つけている場合もありますので、改めて定義等について確認しました。

<p>いじめ</p> <p>同じ学校にいる生徒に 悪口 無視 暴力 書き込み 物品へのいたずら 心身の苦痛を与えるもの</p>		<p>いじめは、「被害者」と「加害者」だけの問題ではありません。周りではやし立てたり、喜んで見ている「観衆」は、いじめを積極的に是認する存在です。見て見ぬふりをする「傍観者」も、いじめを暗黙的に支持する存在であり、いじめられている子にとっては、支え（味方）にはなりません。したがって、「観衆」も「傍観者」もいじめを助長する存在だと言えます。</p>
---	--	--

いじめとは何か

いじめ構造図

「観衆」「傍観者」の存在

いじめの構造図では、はやし立てたり喜んで見ている「観衆」は、いじめを積極的に認める存在です。そして、「傍観者」もいじめを受けている生徒にとっては、精神的苦痛を与える存在になりうるということを知ってほしいと思います。もし、目の前でいじめが起きたら、注意する。注意できなかったら、先生や大人に知らせる。そのことも難しい場合は、その場を離れいじめに関与しない意思表示が大切です。

いじめ防止対策推進法では、いじめ防止の対策は、国、地方公共団体、学校、地域住民、家庭その他の関係機関の連携の下、社会全体で克服を目指して行われなければならないと定めています。

それでは、学校のみならずみんなが幸福になるためにどんなことに気を付けていけば良いのでしょうか？

みんなが幸福になるために
仲間を大事にする
考えが違う人 **合意**
いろいろな個性 **認める**
いじめをしない・許さない

まずは、仲間（福中生みんな）を大事にしましょう。特に、考えが違う人の存在を大事にし、折り合いをつけましょう。これを、合意形成といいます。また、いろいろな個性を認め合うことで、いじめをしない・させない・許さない学校風土をみんなで築きましょう。

自分の良いところ、他者の良いところを見つけ、自分のことを好きになりましょう。誰かの役に立ちたいと考え実行することは、幸福度の高い人たちの共通点だそうです。

最後に2つの詩を紹介します。どんな感想をもたれるでしょうか。ぜひ、家族で交流してみてください。

みんなが幸福になるために
自分のことが好き
自分の良いところ
他者の良いところ
誰かの役に立ちたい

みんなちがって
みんないい
金子みすゞ

梅の木に 梅の実
柿の木に 柿の実
それでよいのです **相田みつを**